

会議の概要

会議の名称	第2回玉村町都市計画マスタープラン策定委員会
開催日時	平成23年1月14日（金）午後1時30分
開催場所	玉村町役場3階大会議室
出席委員	中村委員・明山委員・齊藤委員・蛭川委員・村木委員・深澤委員 荒巻委員・新井委員
欠席委員	菅谷委員
町側出席者	総務課・経済産業課・生活環境安全課・上下水道課 事務局：都市建設課 委託会社：アジア航測株式会社
会議の議題	（1）全体構想（都市づくりの課題・目標、将来都市構造、将来市街地像） について （2）その他
会議録の作成方法	要点記録

主な発言（検討）内容

1 開会

2 あいさつ

3 本日の予定

会議の前半は全体構想について検討し、後半は現地視察を行う旨の説明を行った。

4 議事

(1) 全体構想（都市づくりの課題・目標、将来都市構造、将来市街地像）について

事務局：（都市づくりの課題・目標、将来都市構造、将来市街地像について説明を行った）

蛭川副委員長：県立女子大の北側の旧滝川地区（国道354号から南側、上之手下新田上新田地区）を市街化区域に編入を検討する計画になっているが、既に工場が多くあり、住居系の用途だと規制が厳しくなり用地の拡大もできないので、外部に出てしまう恐れがある。既存の企業でも共存できるように準工業系の用途設定を検討していただきたい。



経済産業課：あくまで都市マスでの検討段階であるが、既存の工場であれば、ある程度の増築などに対する緩和処置はあるが、かなり大規模にやるならば、工業系の用途の場所に行っていただくことが基本となる。

事務局：ご指摘の地区に住居系の用途を設定した場合、地区内にある工場のいくつかは既存不適格建築物になる可能性がある。準工業の用途設定では、工場や住宅など何でも建つことが可能な緩い規制なのであまり意味がない。既存の工場と住宅が共存共栄できることが理想ではあるが、良好な住宅地を目指す必要もあるため、住居系の用途の設定を検討し、用途の純化を図っていきたい。

荒巻委員：将来市街地像図に東毛広域幹線道路の南側に編入市街地となっているが、住居系や商業系の用途の分けはどうなっているのか。
将来市街地像図の緑の丸は何を示しているのか。
修正事項として将来市街地像図の「×浄化槽センター」 → 「○浄化センター」ではないか。

事務局：東毛広域幹線道路の南側の編入を検討している地区の用途としては、ス

マート IC 予定地から東川へ前橋南 IC から南に抜ける道路との交差点よりまでは商業系を想定し、そこから東の文化センター周辺までは住居系を検討している。

図面の緑の丸は、既存の公園を表示している。

浄化センターの表記はご指摘のとおり修正とする。

明 山 委 員：都市づくりの目標について掲げられたことが、具体的な手法や事業予算がどのくらいかかるかなど、今回の都市計画マスタープランで検討するのか。

事 務 局：都市計画マスタープランでは、具体的な事業手法や予算は議論しない。20年後のまちづくりの基本方針を掲げて、住民と行政が共通認識のもとに目標を設定することが目的である。例えば、都市計画マスタープランでは、道路を計画するのは、単に渋滞するから道路を拡幅するのではなく、その道路をつくることによって将来どんなまちを目指していくのかについて、まち全体を見据えて検討し、基本的な方針を示していくものである。

中 村 委 員 長：何か交通関係でご意見はどうでしょうか。

村 木 委 員：バス協会としての意見としては、市街地はコンパクトにして、できるだけ人が集まる拠点はまとめていただきたい。今後は、バスに頼るだけではなく、徒歩や自転車でも暮せるようなまちづくりが重要である。その意味では、文化センター周辺に拠点をつくるのは賛成である。玉村町でも、東毛広域幹線道路とスマート IC ができることによって、便利になる期待感はあるので、活用方法を考えてはいかがだろうか。

事 務 局：スマート IC の活用として、道の駅の構想を協議中である。また、IC 北側の約 40ha の農地は高崎市との工業団地の計画が以前からあったが、高崎市の方がトーンダウンしている状況である。これだけの優良農地を転用することも現状では難しい状況ではあるが、スマート IC の活用策として検討中である。

中 村 委 員 長：何か農業関係でご意見はどうでしょうか。

齊 藤 委 員：東毛広域幹線道路は、本来土盛りの高架で計画していたので、沿道の農業環境にやさしいということであったが、現在は、ほとんどが平面での計画になっている。農家にやさしい開発をしてもらいたい。農地を市街化区域に編入すると農家は固定資産税が上がるので慎重に検討していただきたい。

滝川の都市計画道路について、将来市街地像図に載っていない意味と、何年も工事が始まらないなかで、建築規制がかかったままの状況であるが、今後はどうなっていくのか。

事 務 局：将来市街地像図には、骨格となる軸、拠点、ゾーンに関わる主な道路しか表示していない。また、町内で 2 か所の都市計画道路が事業中であるが、滝川の都市計画道路は着手していない状況である。財政的な面や用地のこともあり、徐々に進めている状況であり、時間がかかることをご

理解いただきたい。今後、都市計画道路の見直しも実施していきたい。

中村委員長：日常生活の中で住民として何かご意見はどうでしょうか。

新井委員：公園の計画については、ちいさな公園を検討するのではなく、みんなが集まれるような大きな公園を検討してみてはどうか。

住宅と商業が共存した場合、大きな道ができるため騒音にも配慮するようなことをしてほしい。

事務局：公園を計画することも都市計画の一つである。伊勢崎市に環境のよい公園がある場所のほとんどが土地区画整理事業による整備である。今回の計画に文化センター周辺を拠点としているが、住宅整備として整備するならば、道路、公園、下水道整備はセットになる。具体的な公園の整備方針としては、次回の分野別方針である程度示していければと思う。

騒音については、都市環境の中で配慮しながら検討する項目になる。

中村委員長：交通としてタクシーから何かご意見はどうでしょうか。

深澤委員：拠点を整備するときに、バス停の整備にあわせてタクシーの乗り場も設けて利用しやすい状況をつくっていただきたい。

今後は高齢化していくので、病院や介護の話が重要になってくるので、今回の計画に盛り込んではいかがだろうか。

事務局：東部工業団地の周辺に、海洋センター、児童館、福祉施設等の施設が充実しており、病院としてだけではなく、なにか拠点として位置づけをしていきたい。

中村委員長：その他事務局から連絡事項等をお願いします。

事務局：総合計画で10年後を現在人口と同規模は38000人としているが、実際には人口は減っていくので、2400人程度の人口増加の対策が必要になってくる。このため、文化センター周辺の優良な農地を転用して住宅系に開発するのがいいのか。又は、優良な農地を潰さずに既存の市街化区域内の農地（約30ha）を活用するのがいいのか、今後も検討していくので、引き続きご意見を頂きたい。

5. 現地視察

町役場からバスに乗り、都市計画マスタープランに関わる主なポイントを視察した。

【視察ポイント】

①バスを降りての視察場所

- ・利根川新橋付近
- ・東部工業団地の造成地

②視察ルート

町役場

↓

東毛広域幹線道路

↓



利根川新橋



東部工業団地（造成地）



スマート IC 予定地周辺



国道 354 号→町役場

6. 閉会
